

「心の目」を開いてくださる主イエス
(ルカによる福音書 24:36b-48)

ご復活の主イエスは弟子たちの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と声をかけました。けれども彼らは亡霊だと思い、恐れおののきます。その弟子たちに主イエスは「なぜうろたえ」「どうして心に疑いを起こすのか」と語りかけます。疑い、恐れにとらわれた人間には、目の前で起こっている神の業を見ることができないからです。主イエスはその疑いや恐れを、彼らとの交わりのなかで取り除いていきます。主イエスのご自分の手と足の傷を見せました。その傷跡は主イエスであることのしるしです。そしてそれは、裏切った弟子たちの罪を担った主イエスの愛のしるしです。しかしまだ彼らは不思議がります。さらに主イエスは食べ物を求め、かつてのように弟子たちと食事を共にしました。しかしそれでも、疑いや恐れにとらわれた彼らは、目の前で起こっている出来事を悟ることはできません。主イエスはいよいよ決定的な働きかけをなさいます。彼らの「心の目」を開かれたのです。心の目が開かれなければ、人は真理を見ることができないからです。

肉の目だけで人は正しく物事を捉えきることなどできません。わたしたちは同じ世界で、同じものを見ていてもそれぞれ違うものが見えていることがあります。聖書ではそのことが繰り返し語られています。主イエスをメシアとして見る人間もいれば、そうでない人間もいる。主イエスは弟子たちの恐れや疑いを取り除き、心の目を開き、この世界に真に実現している神さまの業を見えるようにし、主イエスの復活の証人にされたのです。

主イエスはわたしたちの心の目を開いてくださいます。わたしたちクリスチャンがこの世にあって、心の目が開かれた者として、今も働かれる神の業の証人となるためです。わたしたちを恐怖から解放するために、ご復活によって、死という「終わりの象徴」に勝利され、もうお終いだと目をつぶってしまうような現実の先にも必ず希望が備えられていることを示してくださいました。疑いから解放するために、裏切った弟子たちに現れ、どんな罪も赦されることを示してくださいました。主イエスはこうして、わたしたちを「うろたえ」「心に疑いを起こす」あらゆるものから解放し、心の目を開いてくださいます。